

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆1000万超の所有者不明建物、法務省が実態調査へ 登記支援を検討

・法務省は登記がされていない「所有者不明建物」の対策に乗り出す。未登記の建物は全国で1000万を超える可能性があり、実態調査を進めて原因を把握。法務局の登記官が職権で所有者に関する情報を収集することを検討。所有者を特定できない建物は震災時の復興の妨げになるほか、再開発や道路整備などの障壁に。

◆25年度の地方税収50.0兆円、5年連続最高 個人住民税が伸びる

・総務省は2025年度の都道府県と市区町村の税収(速報値、国からの譲与分含む)が50.0兆円だったと発表した。前の年度に比べて2.5兆円増え、5年連続で過去最高を更新した。企業の賃上げの動きが広がり、個人住民税が伸びた。25年度の地方財政計画では0.2兆円の増収を見込んでいたが、大きく上回った。

◆住民組織に行政サービス委託 地域交通や高齢者見守り、政府拡大促す

・政府は「地域運営組織」とよぶ住民組織を通じて、過疎地で地方自治体が担ってきた一部のサービスの民間への委託を進める。交付税などを通じて費用を助成する。地域運営組織は交通手段の確保や高齢者らへの見守りに取り組む。総務省が中心となり地域運営組織、RMO(Region Management Organization)の活動や設立を支援する。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆産業用重油の大幅値上げ難航 原油乱高下で4～6月の交渉長引く

・産業用の大型ボイラーなどに使う高硫黄C重油の4～6月期の価格交渉が難航。大幅値上げを打ち出したENEOSと大口需要家が折り合わず、通常なら四半期末にまとまる値決め長引く。中東の混乱で原油価格が乱高下し、石油製品の相場観が定まらない。C重油には主に大型ボイラーの燃料となる高硫黄C重油と発電燃料向けの低硫黄C重油がある。

◆亜鉛建値、4年ぶり最高値 国際相場高と円安が影響

・めっきなどに使う非鉄金属、亜鉛の国内価格が約4年ぶりに最高値を更新した。三井金属は亜鉛の国内相対取引の目安となる建値を1万8000円引き上げ、1トン65万8000円とした。2022年4月20日に付けた最高値(65万2000円)を上回った。国際指標であるロンドン金属取引所(LME)の価格上昇と、最近の円安傾向が建値を押し上げた。

◆全東信破産、事業者支援を金融機関に要請 内閣府や金融庁など

・内閣府や金融庁など7省庁はクレジットカード決済代行の全東信の破産手続き開始をめぐり、影響を受けた事業者を支援するよう金融機関が所属する業界団体などに要請。資金繰り相談や融資判断での丁寧な対応を求める。財務省や厚生労働省、農林水産省、水産庁、中小企業庁との連名で呼びかけた。

《 注目商品 》

■木のキッチン「スージー」にオーク突板フラット扉を追加

・ウッドワンは木のキッチン「su:iji(スージー)」から「オーク突板フラット扉」を発売。スージーはこれまで、ニュージーパイン、オーク、メープル、ウォールナット、桧の5樹種の無垢材で展開してきたが、今回初めて突板の扉をラインアップ。



■マグ・イソベール、高断熱と薄手設計を両立する吹込み用断熱材

・密度14kg/m³以上で、熱伝導率0.048W/(m・K)の断熱性能を実現する天井吹込み用グラスウール断熱材。薄手設計により天井スペースを有効活用し、天井の高さや設計の自由度を高めた。吹込み工法により継ぎ目・隙間なく充填することで施工品質が安定化、施工負担を軽減。



■シャープ「プラズマクラスターエアコン<Rシリーズ>」

・2027年度を目標とする新省エネ基準を全機種で達成した、プラズマクラスターエアコン<Rシリーズ>8機種を発売。カビの増殖を抑制する「防カビカラッとファン」を新たに搭載。カビ対策として、業界で初めてファンに「超親水ナノコーティング」を採用。

